

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都市 】

学校名【 京都市立東山泉小中学校 】

1 実践テーマ	I ・ III ・ V
2 実施対象者 (学年・人数)	第7学年（66名）
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (保健体育・道徳)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 (特別活動)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が多様な違いを理解しながら、主体的に社会参画していかうとする態度を育てる。 ・児童生徒がオリンピック・パラリンピック教育を通じて、スポーツの価値に気づくことができる。
5 取組内容	<p>○7年生保健体育…体育分野：体育理論の単元 運動スポーツの多様な関わり方、楽しみ方の中でオリンピックやパラリンピックに関わる様々立場の方を紹介した。</p> <p>○7年生道徳の授業…教材”I'm possible”を用いて、車いすバスケットボールに取り組んでおられる香西選手の生き方から、自分のより良い生き方について考えた。</p> <p>○7年生人権学習…ユニバーサルな社会を築いていくための知識を身に付け、車いすの実体験を行う。 12月9日（木）</p> <p>講師：京都 UPS 山本英嗣様、八橋龍二様 北京パラリンピック車いすバスケットボール日本代表コーチ 坂野晴男様</p> <p>① 選手紹介、デモンストレーション…車いすバスケットボールの特性等</p> <p>② 車いす体験…前進後進リレー、5vs5 クラス対抗試合</p> <p>③ 選手体験談、質疑応答…病気やけがの経緯。車いすバスケットとの出会い</p>
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育の授業では、オリンピック、パラリンピックに関わる様々な人を紹介することで、その後に開催の予定がなされていた、東京2020オリンピックパラリンピックへの興味関を高

	<p>めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 道徳授業では、香西選手が実現したい目標に向かっての様々な取組、目の前にあるハードルを越えるための強い意志など、生徒たちが自分の今の状況を振り返り、どのように生きていこうか考えることができた。 • 車いす体験では、実際に体験し、お話を聞くことにより、今後どのような社会を自分たちの作っていかねばいけないのかについて考えることができた。 <p>—以下児童生徒の振り返りより—</p> <p>「障がいの有無にかかわらず、みんなが笑顔でいられる、思いやりがある社会を実現したい。バリアフリーなどあるが、まだまだ改善できるところがある。みんなが少しずつ、他の人のことを思えば、社会はもっと暮らしやすくなる」</p> <p>「目の前に大きな大きな壁があったとしても、それを乗り越えようとする勇氣、周りのひとの支えがあるから乗り越えられるのだと思った。努力して乗り越えていく姿、メンタルの強さ、自分ならあきらめてしまうと思うようなことでもあきらめずに何度でも立ち上がって挑戦する姿がかっこいいと思います。どんな人でも、気軽に心地よく暮らせるには周りの人を考えることが大切だとわかりました。」</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 職員会議で、オリンピックパラリンピック教育についての共通理解を図った。オリンピックパラリンピック教育は、数年前から本校で取り組んでいるので、取組概要についてイメージの共通理解がしやすかった。 • 道徳で使用した「impossible」は必要なところを抽出して、使用した。 • 車いすバスケットボールは感染症対策講じて実施した。
<p>8 主な課題等</p>	<p>車いすバスケットボールの実施には、運搬費も含め予算面の工夫、日程の調整が必要。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>来年度も継続して実施していく予定である。</p>